

40インチ以上の大型液晶テレビの効率的な生産に貢献！
「超広幅フジタック」の新工場 稼動開始
最新鋭設備の省エネ工場で、VA用フィルムの超広幅品の生産スタート

平成 23 年 4 月 21 日

富士フィルム株式会社（社長：古森 重隆、以下富士フィルム）は、「超広幅フジタック」を生産する神奈川工場（フラットパネルディスプレイ材料生産部）足柄サイト 第 3 工場を 4 月上旬より稼動させました。15 台目のフジタック製造ラインである新工場では、「超広幅フジタック」の中でも、大型液晶テレビの表示方式^{※1}のひとつである「VAモード」に使用され液晶テレビの視野角の拡大やコントラストの向上に寄与する「VA用フィルム」を生産します。従来に比べ最大 1.7 倍の 2300mmの超広幅品の生産が可能で、40 インチ以上の大型液晶テレビの効率的な生産に貢献します。

液晶テレビは低価格化や高性能化により、先進国に加え新興国においても急速に需要が拡大しています。なかでも 40 インチ以上の大型液晶テレビの出荷台数は、年率 30%以上増えており、平成 23 年には面積ベースでテレビの約 50%を占める見込みです。このため、大型液晶テレビの効率的な生産を可能にする「超広幅フジタック」の需要が拡大しています。富士フィルムは昨年より、「超広幅フジタック」の生産能力増強を進めており、今回稼動した新工場の他、昨年 10 月には富士フィルム九州^{※2}第 2 工場第 4 ラインを立ち上げ、そして今年 10 月には同第 4 工場第 7 ライン^{※2}を稼動させる予定です。これらが全て稼動すれば、「超広幅フジタック」の生産能力は、フジタック全体の 3 割以上の 245 百万㎡になる予定です。

今回の新工場は、天然ガスコージェネレーション設備^{※3}による自家発電の電力で稼動します。また、生産するフィルムの超広幅化とラインのスピードアップを図るとともに、生産工程で発生する蒸気を徹底して再利用するなどの省エネルギー対策を行うことで、単位面積あたりのエネルギー使用量を従来の半分にまで減らすことに成功しました。

富士フィルムは、超広幅規格の標準化を牽引し、「VA用フィルム」の他、「プレーンタック」、「IPS用フィルム」など、各液晶モードに対応した「超広幅フジタック」を提供することで、大型液晶テレビの生産効率の向上に貢献していきます。

※1 液晶テレビの表示方式には、液晶分子をどう配向させるかによって、主に(1)TN(Twisted Nematic)モード、(2)IPS(In-Plane Switching)モード、(3)VA(Vertical Alignment)モードがある。32 インチ未満テレビは(1)、32 インチ以上テレビは(2)(3)の各モードが中心に採用されている。

※2 富士フィルム九州 第 2 工場 第 4 ラインの生産品目：超広幅プレーンタック(1960～2300mm)
富士フィルム九州 第 4 工場 第 7 ラインの生産品目：超広幅プレーンタック、超広幅 IPS 用フィルム(いずれも 1960～2300mm)
【プレーンタック】光学補償などの機能を付加していないタックフィルム。偏光板保護フィルムとして使用されている。
【IPS 用フィルム】IPS モードの偏光板において斜め方向から画面を見た際の色味変化を抑える機能を持つフィルム

※3 発電の際に発生する排熱を蒸気や温水などで回収し、有効利用する熱電併給システム

<新工場の概要>

工場名	神奈川工場（フラットパネルディスプレイ材料生産部）足柄サイト 第 3 工場
建設場所	神奈川県南足柄市中沼 210 番地
投資金額	約 100 億円
生産品目	超広幅 VA 用位相差(1330～2300mm)
生産能力	年間 35 百万㎡
延べ床面積	約 12 千㎡

＜今後のフジタック供給体制計画＞

	生産能力/年	合計能力/年	内超広幅フジタックの生産 能力合計
既存工場		675百万㎡	140百万㎡
神奈川工場（フラットパネルディスプレイ材料 生産部）足柄サイト 第3工場 ＜平成23年4月稼働開始＞	35百万㎡	710百万㎡	175百万㎡
富士フイルム九州 第4工場第7ライン ＜平成23年10月稼働予定＞	70百万㎡	780百万㎡	245百万㎡

本件に関するお問合せは、下記にお願いいたします。

報道関係 広報部

インターネットホームページアドレス

TEL 03-6271-2000

<http://fujifilm.jp>